

9) 終わりの祈り

— 聖書の分かち合いをした場合

8) 分かち合いでの気持ちや項目の要点などを確認する (5分)

適当な担当者がいれば、簡単なコメントをする。そのあと終わりの祈りへ (時間がなければ、聖書を朗読し、分かち合いをばいして少し沈黙のうちに祈る。)

あと小グループで分かち合う。各自が好きな箇所を選んでよい

7) 聖書の箇所があれば、そのうちひとつを選んで朗読し、少し黙想した (30分)

6) 適当な担当者がセッションの要点のまとめ・確認を行う (5分)

全体で再度分かち合う いくつかの小グループに分かれた場合 (10分)

5) 全体が集まって分かち合いに出された要点を紹介し合い、必要があれば

4) 小グループ(6~7人くらいがよい)で分かち合う。 (40分)

3) ◇分かち合いのリーダー◇を読み、分かち合いの説明をする (5分)

2) 一人が、取り上げる項目の説明文を読み、内容を簡単に確認する (10分)

1) はじめの祈り (簡単な導入の祈り、聖歌などが入るとよい)

この資料は、各項目を以下のような展開例で利用することを想定してつくられています。

● 養成講座の基本的な展開

することもできます。

3. 全体は、15項目・16セッションと最後の「まとめのプログラム」で構成されています。全
体をしっかりと理解するためにはすべての項目を通して行うことが必要ですが、一般的
な養成のために、一部だけを取り上げて利用したり、2回分を一つにまとめて行ったり

該当箇所を参照してください。

また、できる限り『大阪教区における信徒奉仕職のあり方について—中間報告—』の
ていつてください。

2. 進行・説明役(ファシリテーター)を担当される方は、あらかじめこの「手引き」を読み、
「項目のねらい」および「分かち合いのポイント」を十分に理解し、プログラムを進め

「聖書」は、一部本文を掲載していますが、原則として各自が持参してください。

味や関心がある人びとが集まって進めていきます。

1. このプログラムは、とくに分かち合いながら「信徒奉仕職」の基礎を学ぶために作られ
たものです。司祭・修道者・信徒など数名がグループ(リーダー)となり、信徒の奉仕に興

● はじめに

利用の手引き

みんなで担う「信徒奉仕職」 — 信徒奉仕職を知るために —